

# 平野ヶ丘



多治見市立養正小学校  
校報『平野ヶ丘』

令和4年度 学校報 第7号  
令和4年9月30日(金)発行  
「みなさまのおかげで、本年は  
創立150周年を迎えます。」



## 校長室のひとりごと

### 『○○の秋』

校長 熊崎 健一

天気のよい日中はまだまだ暑い日もありますが、朝夕は日増しに涼しくなり秋の気配を感じる季節になってきました。空を見上げてみると、夏のモクモクとした雲にかわって「うろこ雲」や「ひつじ雲」といった秋の雲を天高く見上げることができるようになってきました。目線を落とせば、赤とんぼが飛んでいるのをよく見かけます。また、子供の登校の様子を見てみると、先週あたりから長袖を羽織ってくる子がちらほら見られるようになってきました。

さて、『スポーツの秋』・『読書の秋』・『食欲の秋』・『行楽の秋』…、秋にも色々ありますが、お子さんはどんな秋を楽しみにしているのでしょうか？学校では、これから運動会、生活科・社会科見学、校外学習、150周年事業などの行事が目白押しです。通常の授業とはまた違った場面での活動をきっと多くの子供たちが楽しみにしていることでしょう。秋は何をやっても心地よく、充実感を得やすい季節です。そして、この“ワクワク感”や“ドキドキ感”を抱いて活動することが、子供の思い出として刻まれ心をグッと成長させてくれます。

今は？といいますが、やっぱり運動会に向けての取組です。体育館や運動場に移動する子供の顔を見てみると、楽しく取り組んでいる気持ちが表情に見て取れます。個人走やリレー、演技などの練習では思わず笑みがこぼれます。つつい仲間を応援する声や勝敗が決した瞬間の歓声が出ています。そんな中、感心させられるシーンがありました。応援リーダーが朝早くから結団式の準備をしています。その姿を遠くから憧れの目でじっと見つめる下学年の姿があります。また、練習のために運動場にラインが引かれていますが、外遊びに出てきた子の多くはラインを踏まないように気をつけ、遊ぶ場所も考えているようです。

一つの行事を通して、こんなところでも子供たちは心をはたらかせて大切なことを学び成長しています。そして、それがやがて学校文化として根付いていくのです。様々な行事を通じた経験が、子供たち一人ひとりの『実りの秋』へとつながっていくことを願っています。

## 一冊の本から未来を拓く ～「青少年赤十字文庫」の寄贈～

このたび、日本赤十字社岐阜県支部 様より、図書(10万円分)をご寄贈いただきました。『青少年赤十字創設100周年』事業の一環として、県内全ての小・中学校に送られたものです。本校も青少年赤十字に加盟しており、今回は、活動の三本柱である「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」にちなんで、SDGs(国連で採択された2030年までに達成すべき持続可能な開発目標)に関する図書を選書しました。図書館に特設コーナー(右の写真)を設けたところ、さっそく子供たちは興味深げに本を手にとって読んでいます。また、図書委員のメンバーも心のこもったお礼のお手紙を書いてくれました。今回のご寄贈に感謝申し上げるとともに、新たな本との出会いが子供たちの未来を拓く一助となることに期待します！



### 【青少年赤十字の活動は…】

青少年赤十字では、子供たちが「人のいのちと尊厳」を大切にする人道的価値を身につけ行動することを目指し、世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、青少年自身が日常生活の中で望ましい人格と精神を自ら形成することを目的として活動しています。